

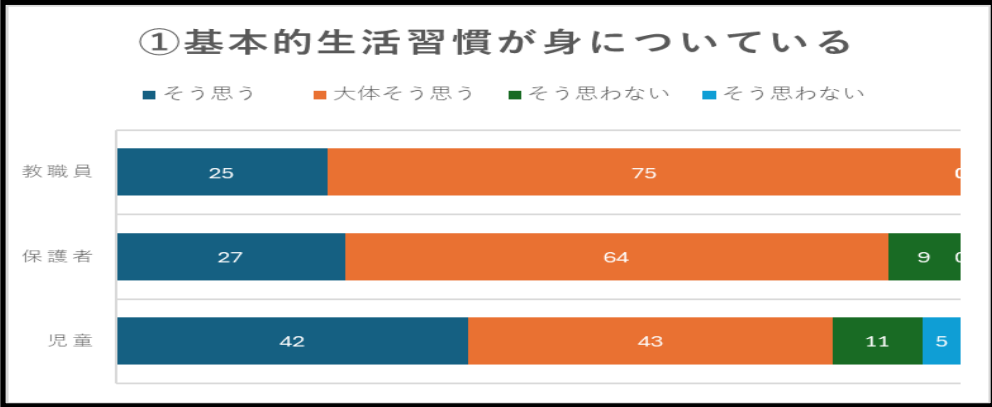
令和6年度 前期 学校評価アンケート集計結果

実施:令和6年7月12日～7月19日

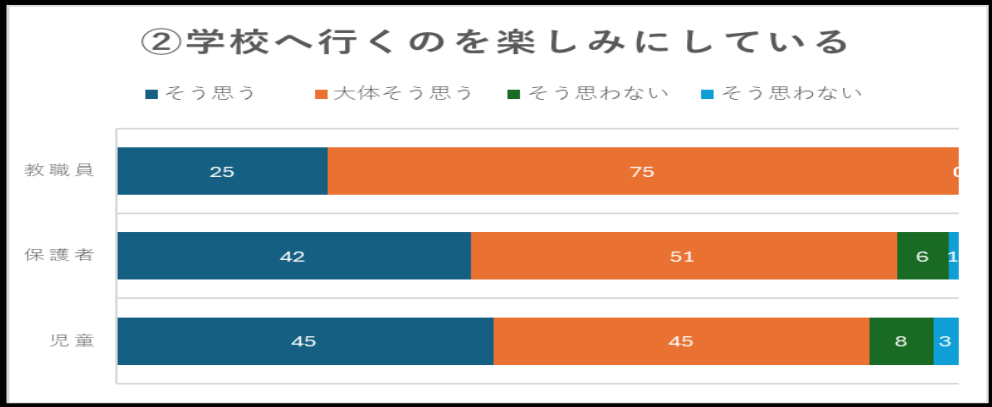
令和6年10月31日
京都市立京極小学校
校長 足立 素子

学校教育目標「伝統を受け継ぎ、未来をたくましく生きる子の育成」 ～みんながちがう それがいい～
めざす子ども像 ㊦ 興味をもって学ぶ子 ㊧ よく聞き、話し、考えを深められる子 ㊨ うんとたくさんあいさつする子 ㊩ 心も身体も元気な子 ㊪ くじけない子

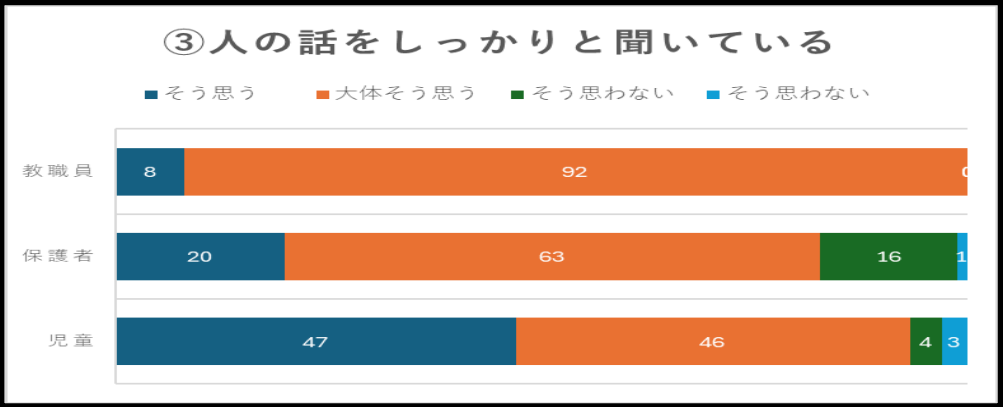
児童・保護者・教職員を対象に学校評価アンケートを行いました。ご協力ありがとうございました。



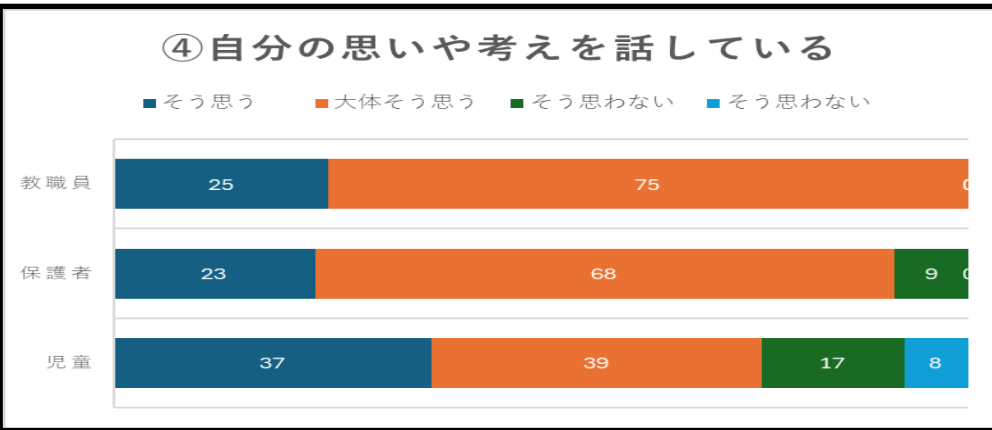
概ね「身についている」と回答しています。一方で、児童自身からは「そう思わない」との回答が一定数あります。今後、欠食等食生活の乱れ、運動量減少による運動習慣問題、ゲームの影響による深夜化を避けるためにも、小学校の時期から、子ども自身が意識していけるよう指導していきたいです。



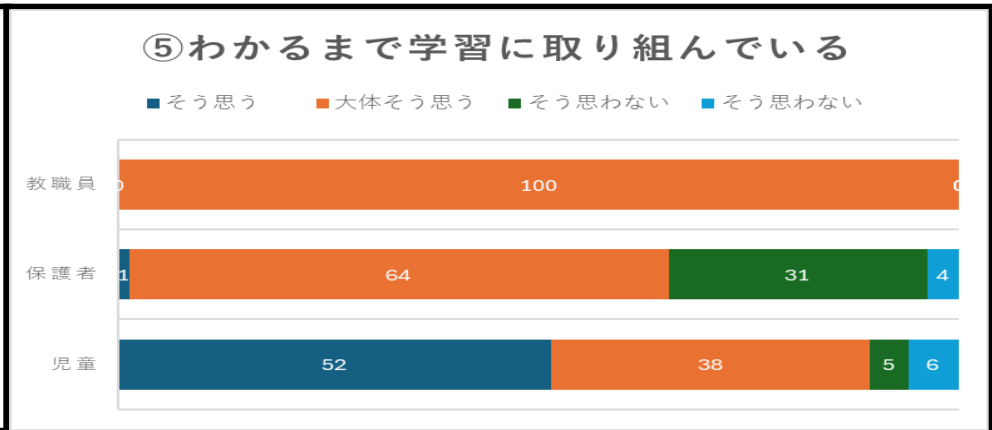
概ね「楽しみにしている」と回答しています。ただ、少数ではありますが、「そう思わない」との回答が、保護者と児童から見られます。これについては、少数であっても状況把握と家庭と学校との連携を大切に、ていねいな聞き取りと支援が必要だと考えています。



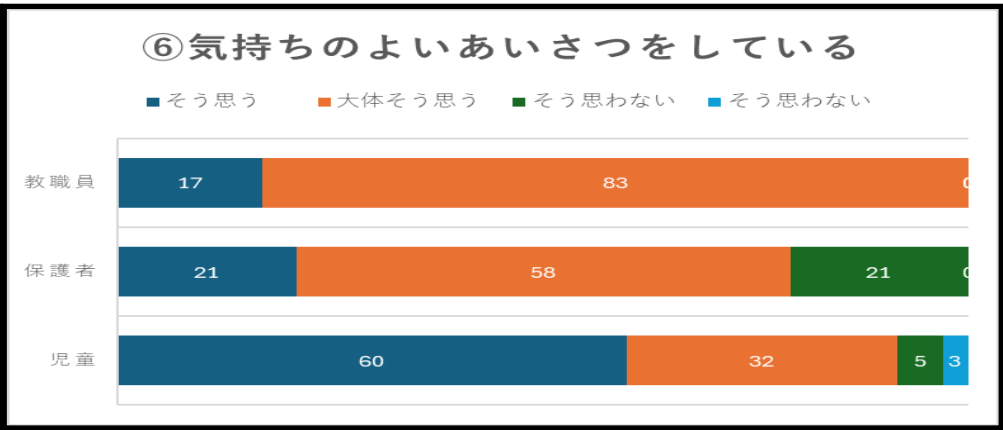
概ね「聞いている」と回答しています。しかし、児童、教職員、保護者との意識の差が見られます。話を聞く力は、理解力や協調性につながっており、相手を尊重する意味も含まれます。よりよいコミュニケーションをとるための基礎となる「話を聞く」力を学校生活や学習の中で、しっかりと身に付けていくことを目指します。



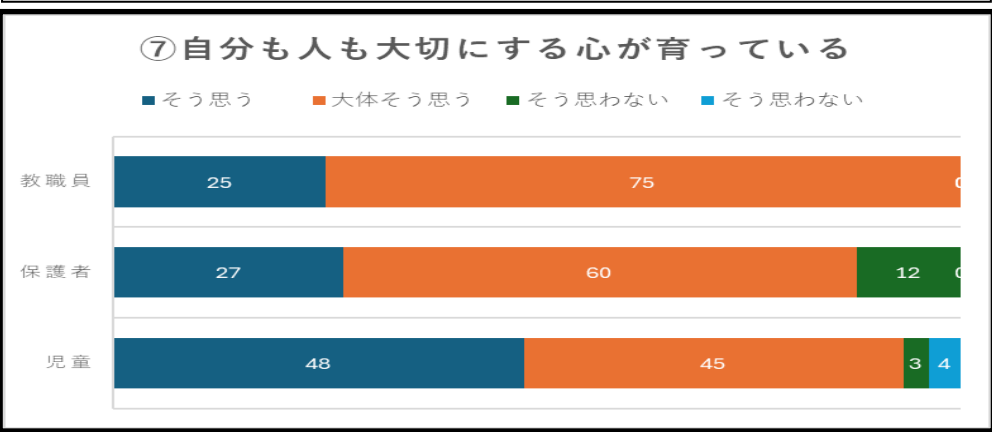
概ね「身についている」と回答してしていますが、児童の回答には、個人の考えに差が見られます。「話したい」という児童の意欲を大切にしながら、安心して思いや考え、気持ちを言葉で伝えられるような学習環境や学級づくりをしていくことが大切だと考えています。



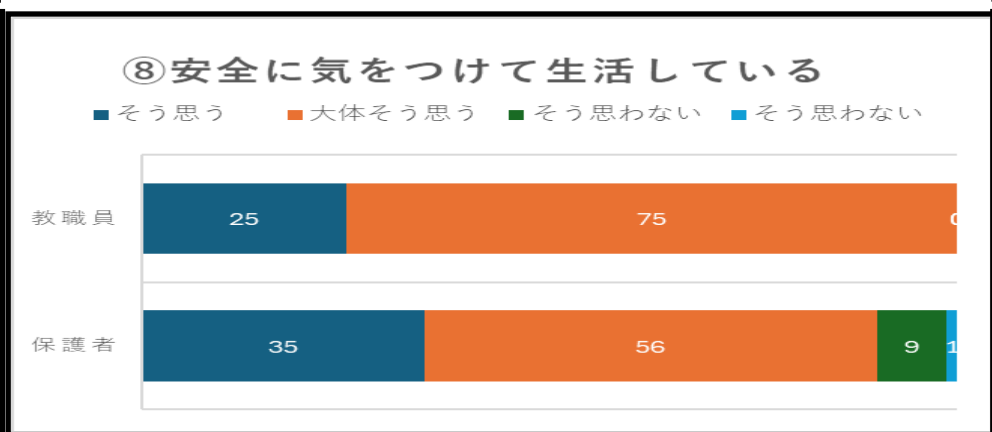
児童の回答は個人差が見られますが、半数以上が「そう思う」と答えています。学校では、基本的に「わかるまで指導をする」という姿勢で学習指導を行っています。保護者の回答には、「そう思わない」が多くみられます。学校で学習に向かう児童の姿を保護者の方と共有し、共に支援していけるよう努力を続けます。



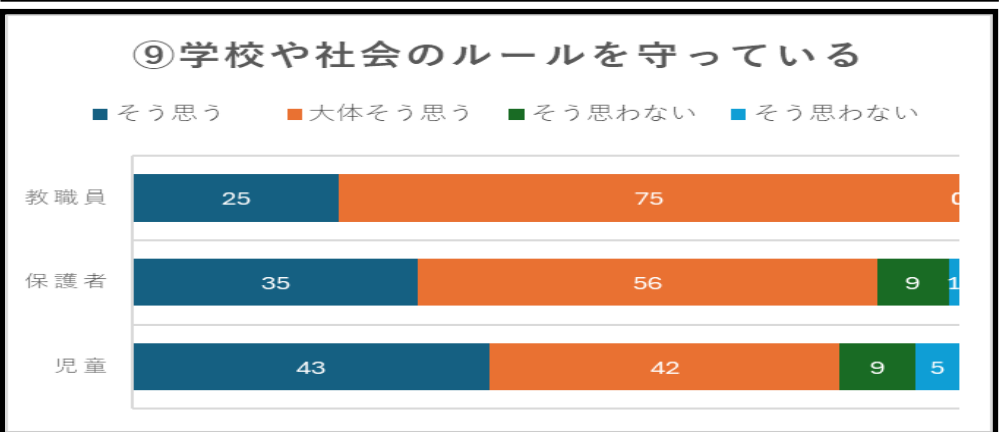
これは学校として大切にしたいことです。半数以上の児童が「そう思う」と回答しており、子ども自身も意識して努力を続けていることだと思います。保護者の回答は、他に比べて「そう思わない」が多くみられます。客観的にはまだまだそう感じられる状況であることを受け止め、今後も「自分から」できるようにしていきたいと思います。



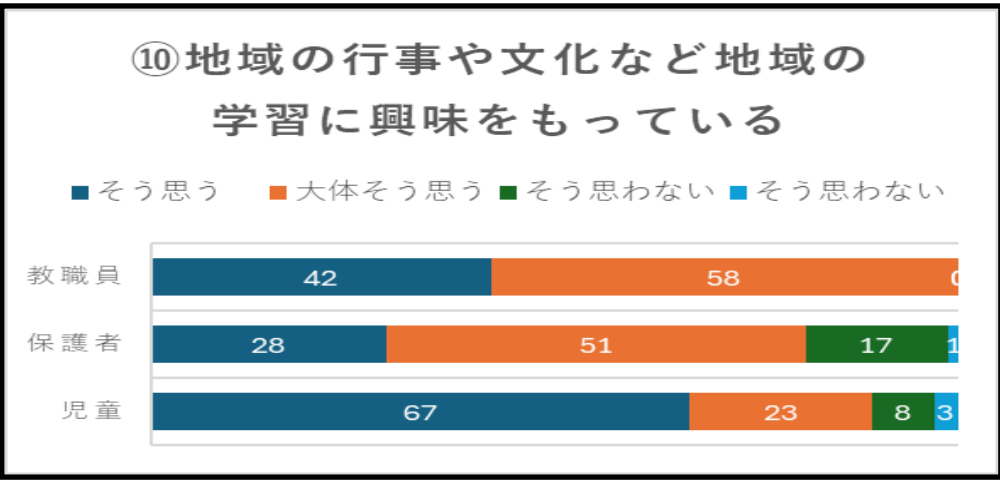
半数の児童は「育っている」と自覚しています。「自分も人も大切にできる心」は、互いに尊重し合う、人との関係性につながっていきます。まず自分を理解して、ありのままの自分を受け入れること、これができる人は、他者に対しても同じようにできるはずです。それぞれのよさを認め、信頼し合える関係を大切にしていきたいと思います。



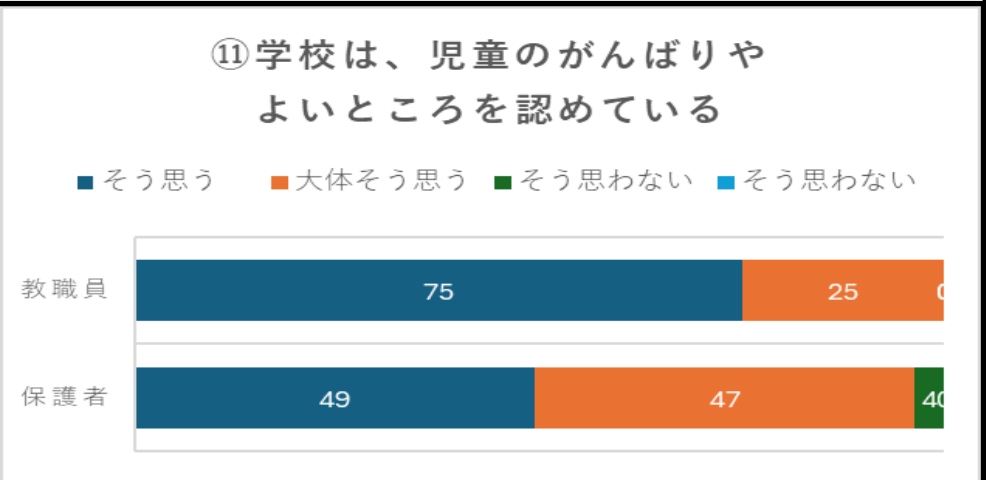
概ね日ごろから安全の意識をもって生活できているという結果がでています。児童は、京極学習でも防災に取り組んでいます。また、火災、地震、不審者侵入などに対する避難訓練も年間数回行っています。今年度は、学習中に地震が起こったこともありましたが、日ごろの安全学習に基づき、落ち着いて適切な行動ができました。



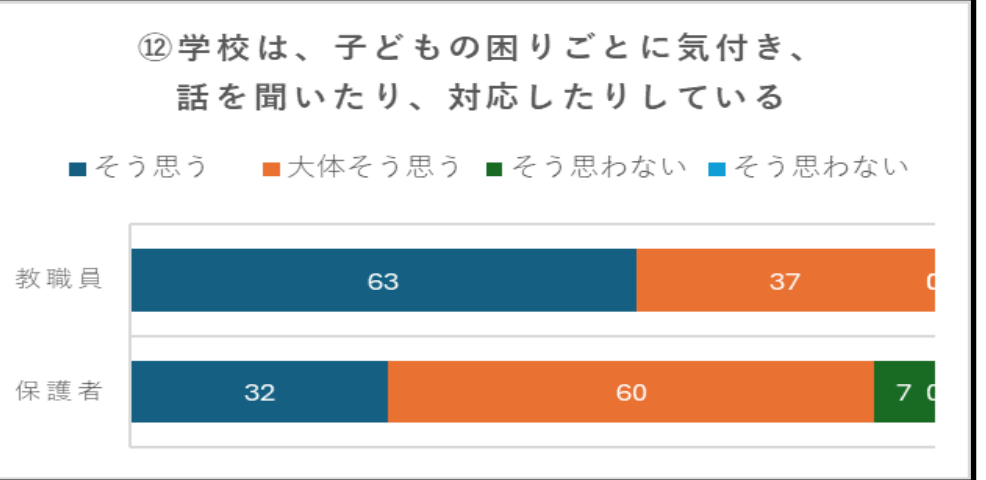
概ね「守っている」と回答しています。少数ではありますが、保護者や児童に「そう思わない」という回答が見られます。社会状況によりルールが変化したり、新たなルールが生まれたりしますが、大人が模範となって守るべきだと思います。自分たちが安心して過ごすためのルールだという意識をもてるようにしていきたいです。



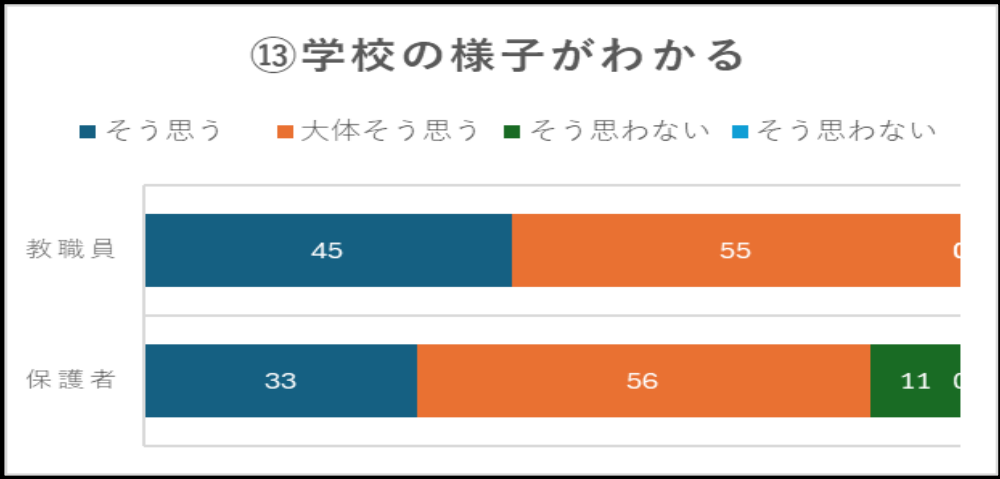
児童は、地域に興味、関心を強くもっています。京極学習で様々なことを学習する中で、地域のよさを再確認したり、京極の地域に誇りをもったりしている姿も見られます。今後も地域への親しみが深まっていくよう、保護者や地域の皆様と共に学習を続けていきたいと思ひます。



教職員全体で児童のよいところを認め、褒めることを心掛けています。頑張りを見取ったときには、家庭にもそれを返していくことが大切だと考えています。学校と家庭が連携して、児童の頑張りやよいところを認め、褒めたり応援したりしながら見守っていくことが⑦の「自分も人も大切に作る心」にもつながっていくと思ひます。

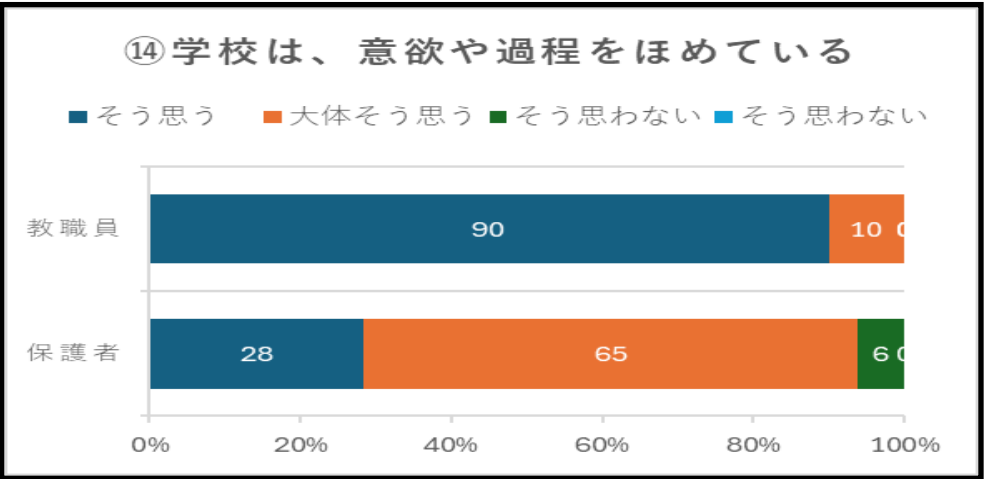


保護者の回答には、少数ではあるものの、「そう思わない」があります。日ごろからの児童とのコミュニケーション、適切な保護者対応などが行えるよう、学校がチームとして機能することが大切だと考えます。子どもたちの困りにいち早く気付き、話を聞いたり、共に考えたりできる温かい信頼関係をつくっていききたいと思ひます。



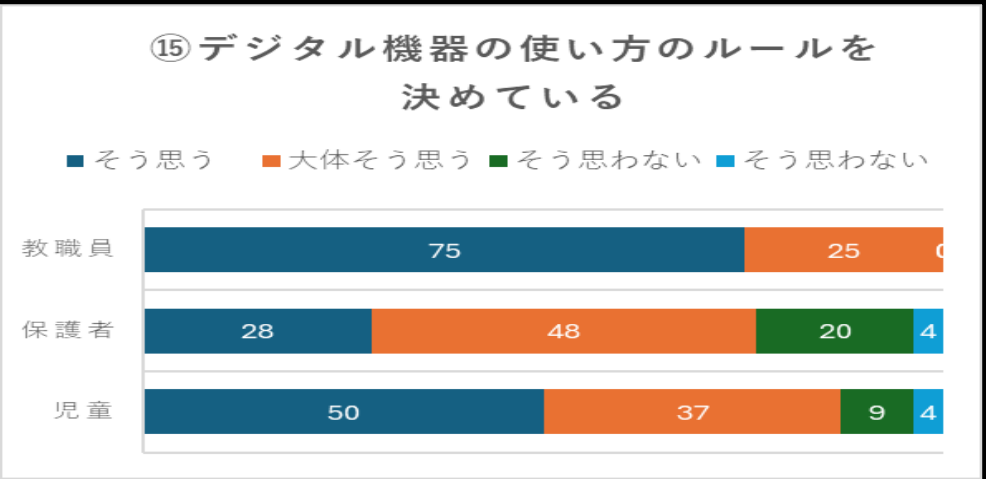
学校ホームページで定期的に学習活動や行事の様子を公開しています。学年によって偏りが生じているとの指摘もありますので、改善すべく努力しています。学校だよりや各学級のおたよりでも伝えてまいります。

また、日ごろから学校での児童の様子を保護者の方に伝えたり、ご家庭での様子を聞いたりしながら、共に見守る姿勢を大切にしていきたいと考えています。



児童と教員が、頑張り過程を共有して、ほめることで自己肯定感を高めていきたいです。子どもたちが意識してがんばったこと、褒めてほしいところを褒めることができるように、日々の関わりが必要かと考えます。

これについても日ごろからの学校と家庭の連携が大切だと考えます。また、児童が安心して自分の力を発揮できるような環境作りをしていきたいです。



学校でも家庭でも、デジタル機器の使用についてはルールが必要だと考えます。一定のルールを決めて、子どもが守れるようにしていくこと、定期的に話し合いをもつことも有効かと思ひます。どのような画面を操作しているのか、どのようなサイトを閲覧しているのかを、常に大人が把握しておくことが必要です。成長過程の児童にとっては、脳への悪影響も懸念されるところです。ご家庭でも再確認をお願いします。

自由記述欄由一部抜粋【ご家庭でのお取組等】

- ・食事のときに肉や揚げ物など好きなものばかり食べたがるので、苦手な野菜を先に食べさせてからほかのメニューを出すようにしている。
- ・学校給食の食事時間が 20 分というのは短すぎる。ゆっくり食べればいいというわけではないが、短時間では一気に食べるやり方しか身につかないのではないか。
- ・毎朝、便意がなくてもトイレに座る習慣をつけたらほぼ毎日排便後に登校出来るようになった。
- ・まだ学校生活に緊張が強く、寝の前や朝は行きぐずりが見られるが、笑顔で帰宅し学校での出来事を色々話してくれるので少しずつ楽しんでくれるといいなと思ひている。
- ・話をする時は子どものタイミングを待つ。子どもが話し始めたら、良く聴く。すぐに話せなくても、徐々に整理して話せたりするので、思ったよりいろんなことを理解して考えているように思ひった。
- ・親子で読書の日はスマホ、パソコンは使わずテレビは新聞で確認してラインを引き、何を見るか決める。(ガラガラみない)子ども自身から遊びを創造するようになった
- ・タブレットで動画を見るのは 30 分までと決めて自分でタイマーをセットさせる。テレビは時間を決めて見る。携帯、インターネット、ゲームを自分管理にさせて自覚したのか時間を守る様になった。
- ・こちらからダメな事を言うとう効果が無い。自己管理の方が効果的。・時間を決めてタイマーで計って時間管理をしている。
- ・タイマーを使って遊び勉強のメリハリを付ける。ゲームの時間を制限している。・視力低下が進まないよう、手元のスクリーンを 20 分見たら、遠くを見る休憩を 5 分ほど挟む。
- ・チャイムがあった方が子供たちも切り替えしやすいと思う。低学年の間は特に。・学年によってホームページへの記載が少ないと思う。
- ・毎日子どもと一緒に勉強したり遊んだりしている。・身の回りの整頓や家事の表を作り、おこづかい制にしたら、ゲーム感覚で楽しんでしてくれる様になった。
- ・親が友人家族とよくあそぶので、初対面のお友達とも楽しくあそべると感じる。
- ・教室での学習の様子など、保護者が学校に子どものことを相談した際には、その後対策など講じたことについて学校からの返答が欲しい。
- ・スケジュールやルールの視覚化や教科書を提示するタイミングの配慮など、応用行動分析の考え方を取り入れた支援。
- ・発達に特性のある子どもも過ごしやすい環境の構築は、共に過ごす周りの子どもたちにとってもよい環境と考えられる。引き続きインクルーシブでユニバーサルな教育環境づくりをお願いしたい。
- ・苦手そうな授業の時は、簡単に予習をした。予習していくことで、少し苦手意識が減ったかもしれない。
- ・このアンケートは子どもや家庭の生活状況を調査する項目が中心であり、学校の改善を目的としたものと思われなひ。
- ・毎日楽しそうに学校へ通っている。この秋は運動会が以前のように開催されることが楽しみだ。
- ・学校でトラブルの多い子の親に、直接指導してくださるよう言ったら、困り事が減った。
- ・目指す子ども像は、安心安全な環境を作ってこそ目指せるもの。今の京極小学校は、安心安全な環境と言えないのではないか、学校をのぞきに行くと思うことがある。目指す子ども像の評価をとるのも結構だが、まず大前提である安心安全な環境づくりをしてほしい。

学校運営協議会のみなさんより

- ・評価の結果も大切だが、その前に、どのような質問項目を設定するかが大切だと思ひう。今後は、そこにも意識をもっていくたい。
- ・子どもたちの姿から、あいさつができるようになったと感じる。朝だけではなく様々な場面でできるようになっている。
- ・③「人の話をしっかりと聞いている」④「自分の思ひや考えを話している」ということは、これから大切にしていくところだ。
- ・高学年児童の意識が高まってきていると感じる。自由な発言ができる関係性の中で、一人一人の意見を大切に、ルールなどを作り上げていくとよいと思ひう。
- ・地域での体験などを通して、自分たちで考えたことを実現できたことが、子どもたちの自信につながっているのではないかと感じる。
- ・今の時代は、両親とも仕事をもち、子どもの SOS に気付きにくい状況がうかがえる。PTA として、何かできたらという思ひがある。
- ・家庭での子どもの姿から、学校の学習で学んだことが日常に生かされていることが伝わってくると、驚きや喜びを感じることが出来る。
- ・子どもの性格は様々で、小学校時代は学んだことを蓄積し、中学校で開花するということもある。子どもたちを長い目でみていくことも大切だと思ひう。